

# 夫婦の【世界と日本語交流活動】・34年間の歩み

大森和夫・大森弘子（190-0031 東京都立川市砂川町 2-71-1-C621）=2021年9月

E-Mail=yuraumi@yahoo.co.jp URL=http://www.nihonwosiru.jp/

## 一・・「日本語教材」の作成と寄贈 平成元年～平成29年

- 【一】1989年3月～1997年3月まで8年間、「季刊誌『日本』」（30頁前後）を33号まで、計約72万冊無料配布。国内の大学・日本語学校、中国を始め、タイ、インドネシア、韓国、台湾、フランス、イギリス、アメリカなど30数カ国・地域の大学に寄贈。
- 【二】1995年に「季刊誌『日本』」を基に「日本語精読教材【日本】」（206頁）を作成、その後、「大学用。日本語教材【日本】」（上、下）、「MP3付【日本】」（上、下）、2014年作成の【新日本概況】まで6回改訂。2016年まで、中国などの大学に約7万冊寄贈。
- ◇『季刊誌【日本】』、『日本語教材【日本】』の作成と寄贈=79万4千冊

電子書籍「日本語教材【日本】という国」を無料公開（2016年）

【日本】という国（ルビ付き・251頁）=<http://www.nihonwosiru.jp/>

世界の「日本語学習者」が、誰でも、「無料」で、「日本語」と「日本事情」が勉強できる！

【三】2022年5月＝「【日本】という国」（朝日新聞出版）出版・寄贈。

## 二・・「日本語作文コンクール」の開催 平成元年～令和3年

- 【一】1989年から1993年まで、「留学生対象の《日本語作文コンクール》」を、計5回主催。応募者総数=3,121人。
- 【二】1993年から2014年まで、中国の大学生を対象に《日本語作文コンクール》を、計16回主催。応募者総数2万2,945人。
- 【三】「世界の日本語学習者」を対象にした《日本語作文コンクール》を主催。
- ◇2016年～2017年「第一回」（応募者数=54カ国・地域から5,141人）
  - ◇2018年～2019年「第二回」（応募者数=62カ国・地域から6,793人）
  - ◇2019年～2020年「第三回」（応募者数=66カ国・地域から9,086人）
  - ◇2020年～2021年「第四回」（応募者数=75カ国・地域から4,013人・9022句）

計25回の《日本語作文コンクール》の応募者総数=5万1,099人（75カ国・地域）

○2022年～「第五回・世界の日本語作文コンクール」（笈川先生主催）の「最終審査」

.....

（一）○2020年9月、《ユニークな『「日本文化」論』》を出版（朝日新聞出版）

留学生、中国の大学生・院生、世界の日本語学習者」を対象に行った24回の

《日本語作文コンクール》の入賞作文から選んだ「日本人に読んでもらいたい作文」112編

（二）○2021年7月、《『俳句』と日本語の夢』》を出版（朝日新聞出版）

※2020年～2021年の「第四回」＝「25回目の《日本語作文コンクール》」として、

「【俳句】コンテスト」を実施。入賞者102人の『「俳句」と「日本語の夢」』を収録

◇全国の高校へ寄贈（2022年1月現在）=上記（一）を約2,300校に、（二）を約1,600校に

## 三・・「日中友好」アンケート調査→1999年～2015年まで4回

◇中国の大学生（日本語科）を対象に実施。80～172大学の計3万9,225人から回答。

【大森和夫】1940年生まれ。早稲田大学政治経済学部政治学科卒。朝日新聞社（大分支局、山口支局、福岡総局、政治部、編集委員など）を1989年（平成元年）に退社、妻と国際交流研究所を開設。世界の日本語学習者との『日本語交流活動』を開始。

【大森弘子】1940年生まれ。京都女子短期大学家政学部卒。『日本語教材』各版の編集長。

☆平成15年（2003年）6月＝文部科学大臣賞（国際交流功労者）

☆令和元年（2019年）12月＝文化庁長官表彰（国際文化交流・多文化共生社会の実現に貢献）

☆令和3年（2021年）8月＝外務大臣表彰（中国を含む各国・地域との相互理解の促進）